

福島県立医科大学々報

目 次

○ 学 事	-----	
平成18年4月6日入学式学長式辞	2
平成18年度入学者数	2
平成17年度医学博士授与者（後期）	3
○ 人 事	-----	
役員・経営審議会委員・教育研究審議会委員・企画室・評価室・ 知的財産管理活用オフィス・危機管理室・監査室・名誉教授・ 部局長・助教授・講師・事務局職員等・大学健康管理センター	5
新任あいさつ	7
・理事長兼学長 高地 英夫		
・副理事長（医療担当）兼附属病院長 菊地 臣一		
・理事（企画・人材開発担当）兼企画室長 丹羽 真一		
・理事（教育研究担当）兼副学長兼学務部長 藤田 禎三		
・理事（経営・渉外担当）兼評価室長兼知的財産管理活用オフィス室長 平子 健		
・理事（管理運営担当）兼事務局長 遠藤 俊博		
○ 諸 規 程 改 正	-----	
平成18年4月から5月までの諸規定の制定改廃関係	10
○ 役員会・経営審議会・教育研究審議会・医学部教授会・看護学部教授会	-----	
教育研究審議会	10
医学部教授会	10
看護学部教授会	11
○ 雑 報	-----	
倫理委員会	12
学生の部活動報告（プライマリ・ケアを学ぼう会、弓道部）	13

学 事

■ 平成18年4月6日 福島県立医科大学 入学式

学長式辞

福島県立医科大学長 高地 英 夫

本日ここに、福島県知事様、福島県議会議長様のご臨席と保護者の皆様のご列席のもと、平成18年度福島県立医科大学入学式を挙げてまいりますことは、本学にとってこの上ない喜びであります。

ただいま入学を許可された医学部80名、看護学部91名、また、大学院医学研究科22名、看護学研究科11名の皆さん、誠にありがとうございます。保護者の皆様にも心からお慶びを申し上げます。

今、皆さんは本学への入学が叶い、これから医学あるいは看護学への道に進むことができる喜びに、胸を躍らせていることと思います。

本学は4月からその正式名が公立大学法人福島県立医科大学となりました。そして、皆さんはその最初の学生であります。本学は昭和19年に設立された福島県立女子医学専門学校を母体として、昭和22年に旧制の県立医科大学となって以来、60年余の歴史をもってありますが、本学建学の精神はさらに遡り、明治5年の須賀川医学校、そして明治4年、白河に開設された医術講義所に辿り着くことができます。皆さんはこのような長い伝統をもつ本学に学ぶ学生であることに自信と誇りを持ち、これからの学生生活を送っていただきたいと思っております。

皆さんがこれから学ぼうとする医学・看護学は、病を防ぎ、癒し、そして健康に過ごしたいという、人間としての根源的な願望に答えようとする学問であり、その実践が保健・医療・福祉です。

将来、皆さんが医師あるいは看護師として、保健医療の現場で向かい合う相手は、病に悩み苦しむ一人の人間であり、その全人格です。ですから、医療に携わる者は、医療人である前に、暖かい思い遣りの心を持ち、かつ人に信頼される教養や倫理観を備えた良識人でなければなりません。

本学が掲げる理念の最初は「ひとのいのちを尊び倫理性豊かな医療人を教育・育成する」ことであります。どうか医学・看護学以外に、他の多くの分野の事柄を学び、あるいは学内外の人との交流を通して自らを磨き、円満な人格と優れた倫理観を備えた医療人に成長するよう、願っております。

皆さんは、これから6年間あるいは4年間にわたり、専門医療職者に必要な多くの知識・技術を身につけてゆくこととなります。しかし、その基盤はサイエンスとしての医

学・看護学にありますから、皆さんは生涯にわたり、科学者としての心構えが求められます。

本学の理念の第二には「最新かつ高度な医学および看護学を研究・創造する」と謳われています。事象を客観的に観察して問題点を見出し、論理的に解決しようとする科学者としての態度を、学生の間にも身につけるよう努めて下さい。

本学は、法人化されても福島県が設立した大学であることには変わりはありません。従って、理念の三つ目に掲げられているように、「県民の基幹施設として全人的・統合的な医療を提供する」ことは、本学の特色ある理念でもあります。多くの皆さんが地域保健・医療への関心と理解を深め、将来、医療人として活躍するときの糧としてくださるよう希望します。

さて、大学院に入学された33名の皆さん。皆さんは医学や看護学の理論・応用の研究を深め、医学・看護学のさらなる進歩・発展に寄与する志をもって入学されました。

今日のような高度化、多様化、そして複合化した保健医療に対応し、継続して保健医療を向上させるためには、医学・看護学の深奥を極める研究の推進は欠かせません。大学院は、医学・看護学の研究者あるいは研究能力を備えた医療職者を養成することにあります。どうぞ大学院生活の研鑽を通して世界に通用する、優れた探求能力と創造性を備えた医療職者となられますよう願っています。

最後になりますが、本学のこの自然に恵まれた環境のもとで、皆さんが充実した学生生活を送られ、大きく成長されることを願って式辞といたします。

■ 平成18年度福島県立医科大学入学者数

① 医学部新入生 80名

	男	女	計
県内	22名	10名	32名
県外	24名	24名	48名
計	46名	34名	80名

② 看護学部新入生 91名（うち3年次編入生10名）

※（編入生）は外数

	男(編入生)	女(編入生)	計(編入生)
県内	8名(1名)	60名(6名)	68名(7名)
県外	0名(0名)	13名(3名)	13名(3名)
計	8名(1名)	73名(9名)	81名(10名)

③ 大学院新入生 33名

	男	女	計
医学研究科	16名	6名	22名
看護学研究科	1名	10名	11名
計	17名	16名	33名

医学研究科

地域医療・加齢医学専攻	1名
機能制御医学専攻	14名
精神医学専攻	1名
分子病態医学専攻	6名
看護学研究科	
精神看護学領域	4名
がん看護学領域	2名
生態看護学領域	2名
地域看護学領域	2名
小児看護学領域	1名

■ 平成17年度医学博士授与者（後期）

[平成18年3月授与]

氏名 学位 論文名

星 奈美子	Immunomodulatory effect of inhibitory oligodeoxynucleotides for the treatment of autoimmune glomerulonephritis in MRT-Ipr/Ipr mice (MRE-Ipr/Iprマウスの自己免疫性糸球体腎炎に対する阻害性オリゴデオキシヌクレオチドの影響について)
鈴木 英二	Gene transduction of tristetraprolin or its active domain reduces TNF-alpha production by Jurkat T cells (Jurkat T細胞へのtristetraprolinもしくはその活性部位の遺伝子導入によるTNF-alpha産生制御)
柳堀 浩克	<i>c-kit</i> mutations in patients with childhood-onset mastocytosis and genotype-phenotype correlation (小児発症型肥満細胞症における <i>c-kit</i> 遺伝子変異と遺伝子型-表現型の関係)
橋本 真一	Macrophage-derived chemokine (MDC) / CCL22 produced by monocyte derived dendritic cells reflects disease activity in patients with atopic dermatitis (アトピー性皮膚炎患者における単球由来樹状細胞のMDC/CCL22産生能についての検討)
刘 昱	Human M-ficolin is a secretory protein that activates the lectin complement pathway (ヒト-M ficolinは補体レクチン経路の新たな認識分子である)
鈴木 伸康	健常人血中DNAの配列情報に関する研究
上岡 正志	Regulation of Advanced Glycation End

	Products (AGEs)-Dependent Gene Expression by a Membrane Type1-Matrix Metalloproteinase-Receptor for AGE axis (膜型1マトリックスメタロプロテアーゼ/終末糖化産物受容体連関による終末糖化産物依存性遺伝子発現の制御)
井上 恵一	Human Uteroglobin-Related Protein1 (hUGRP1) and Bronchial Asthma: Association of plasma UGRP1 levels with G-112A polymorphism and severity of asthma (ヒトウテログロビン関連蛋白 (hUGRP1) と気管支喘息: G-112A多型を有する場合の血漿UGRP1濃度と喘息重症度との関係)
高橋 一朗	Mechanical load on the Lumbar Spine during Forward Bending Motion of the Trunk —A Biomechanical Study in Healthy Subjects— (体幹前屈動作中の腰椎に対する機械的負荷—健常者に対する生体力学的研究—)
深作美津子	Expression of stretch-activated K ⁺ channel TREK-1 in rat bladder smooth muscle cells (ラット膀胱平滑筋細胞におけるstretch-activated K ⁺ channel TREK-1の発現に関する検討)
伊藤 雅之	Expression of human neuronal protein 22, a novel cytoskeleton-associated protein, was decreased in the anterior cingulate cortex of schizophrenia (統合失調症死後脳前帯状回においてヒト神経細胞特異的蛋白hNP22の発現は低下する)
良元 紳浩	大腸癌細胞株HCT116におけるビタミンK3と抗癌剤相乗効果の検討
門馬 智之	ヒト固形腫瘍における時計遺伝子の発現
齋藤 勝	胃癌における時計遺伝子の発現
大須賀文彦	Molecular cloning and characterization of novel splicing variants of human decay-accelerating factor (DAF, CD55) (ヒトdecay-accelerating factor (DAF, CD 55)の新しいスプライシング変異体の分子クローニングおよび特徴)
渡辺 研也	Anti-calreticulin Antibodies in Patients with Inflammatory Bowel Disease (炎症性腸疾患患者における抗calreticulin抗体についての検討)
岡田 実	Pharmacokinetics of diclofenac sodium after oral administration in the aged (高齢者におけるジクロフェナクナトリウム経口投与後の薬物動態)
國分 正恵	Serum amyloid A (SAA) concentration va-

	ries among rheumatoid arthritis patients estimated by SAA/CRP ratio (関節リウマチ患者血清中のアミロイドA蛋白 (SAA)/CRP比について)		グロブリン急性期蛋白値の上昇について; 5症例の報告及び2症例における末梢リンパ節の評価)
辺 夏蓮	Detection and induction of PBP2' in MRSA and MR-CNS (MRSAおよびMR-CNSにおけるPBP2'の検出と耐性誘導)	鈴木 穂孝	Close Relationship of Plasminogen Activator Inhibitor-1 4G/5G Polymorphism and Progression of IgA Nephropathy (PAI-1 4G5G遺伝子多型はIgA腎症の進行に密接に関与している)
千葉 茂寿	ウサギ前立腺の神経伝達機構におけるEndothelin-1の作用についての検討	佐久間知子	Age-related Changes in Anti-Helicobacter Pylori (H. Pylori) Antibodies and Measurement of Salivary Antibodies in Subjects with or without H. Pylori Infection (Helicobacter Pylori (H. Pylori)における抗H. Pylori抗体の加齢による推移と唾液中抗体測定)
佐々島朋美	Anti triosephosphate isomerase antibodies in cerebrospinal fluid are associated with Neuropsychiatric systemic lupus erythematosus (髄液中抗トリオースリン酸イソメラーゼ抗体の神経精神ループスへの関与の検討)	林 章太郎	Mouse Preimplantation Embryos Developed from Oocytes Injected with Round Spermatozoa or Spermatozoa Have Similar but Distinct Patterns of Early Messenger RNA Expression (マウス着床前胚において早期発見するmRNAの発現パターンは卵細胞質内精子注入後と円形精子細胞注入後との胚の間で異なる)
堀内 一臣	Intraoperative monitoring of blood flow insufficiency During surgery of middle cerebral artery aneurysms (Motor evoked potentialを用いた中大脳動脈瘤手術における脳血流不全のモニタリング)	野村 泰久	胎仔低酸素環境下における子宮外循環補助システムの研究
江藤 滋彦	アグマチンの培養ヒトメサンギウム細胞に対する増殖抑制効果の検討	望月 一弘	Extended storage of granulocyte concentrates collected by bag leukapheresis with mobilization by G-CSF (顆粒球コロニー刺激因子にて動員し、バック法で採取した顆粒球製剤の保存期間延長に関する検討)
坂本 信雄	A Crucial Role of LOX-1 in Monocyte Adhesion-Induced Gene Expression via Redox-Sensitive Signaling Pathway and Intracellular Ca ²⁺ Mobilization in Endothelial Cells (内皮細胞への単球接着系でのレドックスシグナル伝達およびカルシウムシグナル伝達における酸化LDL受容体LOX-1の重要性)	七島 晶子	High Frequencies of increased Interferon- γ -producing or Skewed CD8 ⁺ T lymphocyte subfamilies in paroxysmal Nocturnal Hemoglobinuria patients (発作性夜間血色素尿症症例においてインターフェロン- γ 産生亢進または偏位CD8陽性Tリンパ球サブファミリーは高頻度に発現する)
佐野 秀樹	International Neuroblastoma Pathology Classification adds independent prognostic information beyond the prognostic contribution of age (国際神経芽腫病理分類は年齢よりも重要な予後因子である)	國井 浩行	Elevation of bilirubin and its oxidative metabolites biopyrrins reflect the severity of the patients with acute myocardial infarction and negatively correlated with the incidence of restenosis after percutaneous coronary intervention (ビリルビン及びその酸化代謝物ビオピリン値の上昇は、急性心筋梗塞患者の重症度を反映し、経皮的冠インターベンション術後の再狭窄率と逆相関する)
王 新濤	Antithetical Effect of Tumor Necrosis Factor- α Gene Polymorphism on Coal Workers' Pneumoconiosis (CWP) (炭坑夫じん肺症 (Coal Worker's Pneumoconiosis, CWP)におけるTNF- α 遺伝子多型の意義)		
川上 佳夫	Increased serum levels of interleukin-6, immunoglobulin and acute phase protein in patients with the severe clinical form of inherited epidermolysis bullosa; Report of five cases and evaluation of peripheral lymph nodes in two cases (重症な臨床症状を呈する先天性表皮水疱症における血清中のインターロイキン6, 免疫		

村井 弘通	ATP およびアデニン化合物のラット腎循環に及ぼす作用と実験的ネフローゼ症候群モデルにおける反応性の変化	藤田 康喜	子) Detection of disseminated tumor cells in bone marrow using real-time quantitative RT-PCR of CEA, CK19 and CK20 mRNA in patients with gastric cancer (リアルタイムRT-PCR法による胃癌患者骨髓細胞中のCEA, CK19, CK20のmRNAの定量的分析)
高野 恵	Study of the process of glomerular development in the human fetus and infant (胎児および乳児腎における糸球体の発達過程に関する研究)	神崎 憲雄	Understanding the response of dendritic cells to activation by the streptococcal preparation OK-432 (OK-432刺激による樹状細胞の成熟化に関する検討)
松本 健	Increased production of reactive oxygen species in endothelial dysfunction leads to coronary artery spasm, coupling with strong endothelin-1 release (冠動脈内皮障害は活性酸素種とエンドセリン-1を介して冠攣縮を惹起する)	郡司 崇志	Mitomycin-C treatment followed by culture produces indefinite survival of islet xenografts in a rat-to mouse model (異種膵島移植における膵島のマイトマイシンC処置と処置後の培養時間による生着延長効果)
金子 博智	Scintigraphic predictors of remote left ventricular volumes and function in acute myocardial infarction with successful reperfusion (再灌流に成功した急性心筋梗塞の遠隔期左室容積と左室機能の予測における急性期及び亜急性期心筋シンチグラフィーの意義)	浅和 定徳	Participation of bone marrow cells in hepatic fibrosis after bile duct ligation (肝の線維化における骨髓由来細胞の関与)
佐藤 直人	Measurement of endothelin (ET)-1 in sera, synovial fluids and cultured and the effects of cytokines and drugs on its production (血清、関節液、培養上清中のエンドセリン-1測定とサイトカイン、薬剤の影響についての検討)	山田 文彦	Ischemic preconditioning enhances regenerative capacity of hepatocytes in long-term ischemically damaged rat livers (長時間肝温虚血再灌流障害に対するIschemic preconditioningの効果)
隅越 誠	ヒトインフルエンザウイルスのヒト血管内皮細胞への感染とアポトシスの誘導	<hr/> 人 事 <hr/>	
佐藤 直	Lymphoid tissues are predominantly replaced with infused bone marrow cells rather than epithelial tissue following lethally irradiation (致死量放射線照射後の同系骨髓移植では、上皮組織に比して、リンパ系組織の置換が顕著である)	◎役員	
樋口 光徳	Identification of decay-accelerating factor (DAF, CD55) as a peanut agglutinin (PNA)-binding protein and its structural alteration in non-small cell lung cancer (ピーナッツ凝集素 (PNA) 認識糖蛋白としてのdecay-accelerating factor (DAF) の同定と非小細胞肺癌における分子構造の変化に関する検討)	18.4.1 理事長	高地 英夫
塩 豊	Expression profiles of Peanut agglutinin (PNA)-binding carbohydrates is an independent prognostic factor in patients with node-positive pulmonary adenocarcinoma (原発性肺腺癌、原発巣およびリンパ節転移巣におけるpeanuts agglutinin (PNA) 結合糖鎖抗原発現様式の検討—新たな予後予測因	18.4.1 副理事長(医療担当)	菊地 臣一
		18.4.1 理事(企画・人材開発担当)	丹羽 真一
		18.4.1 理事(教育研究担当)	藤田 禎三
		18.4.1 理事(経営・渉外担当)	平子 健
		18.4.1 理事(管理運営担当)	遠藤 俊博
		18.4.1 監事	紺野 邦武
		18.4.1 監事	高橋 宏和
		◎経営審議会委員	
		18.4.1 議長	高地 英夫 (理事長)
		18.4.1 委員	菊地 臣一 (副理事長)
		18.4.1 委員	丹羽 真一 (理事)
		18.4.1 委員	遠藤 俊博

18.4.1 外部委員	(理事) 車田 正光	18.4.1 室員	藤野美都子 (医学部教授)
18.4.1 外部委員	鉢村 健	18.4.1 室員	結城美智子 (看護学部教授)
18.4.1 外部委員	花田 勲	18.4.1 室員	越田 敏和 (事務局次長)
18.4.1 外部委員	南 嘉輝		
◎教育研究審議会委員		◎評価室	
18.4.1 議長	高地 英夫 (学長)	18.4.1 室長	平子 健 (理事)
18.4.1 委員	藤田 禎三 (副学長兼学務部長)	18.4.1 副室長	阿部 正文 (医学部長)
18.4.1 委員	阿部 正文 (医学部長)	18.4.1 室員	安村 誠司 (医学部教授)
18.4.1 委員	中山 洋子 (看護学部長)	18.4.1 室員	上田 和毅 (医学部教授)
18.4.1 委員	菊地 臣一 (附属病院長)	18.4.1 室員	岡田 達也 (医学部教授)
18.4.1 委員	(兼)阿部 正文 (医学研究科長)	18.4.1 室員	真壁 玲子 (看護学研究科長)
18.4.1 委員	真壁 玲子 (看護学研究科長)	18.4.1 室員	堀切 豊 (企画グループ参事)
18.4.1 委員	平岩 幸一 (附属学術情報センター長)	◎知的財産管理活用オフィス	
18.4.1 委員	本間 好 (医学部附属生体情報伝達研究所長)	18.4.1 室長	平子 健 (理事)
18.4.1 委員	丹羽 真一 (理事)	18.4.1 副室長	本間 好 (医学部附属生体情報伝達研究所長)
18.4.1 委員	遠藤 俊博 (理事)	18.4.1 室員	錫谷 達夫 (医学部教授)
18.4.1 委員	横山 齐 (附属病院副病院長)	18.4.1 室員	大戸 齐 (医学部教授)
18.4.1 委員	八木沼洋行 (副学務部長)	18.4.1 室員	加藤 清司 (看護学部教授)
18.4.1 委員	荒川 唱子 (副学務部長)	18.4.1 室員	松岡 有樹 (医学部助教授)
18.4.1 委員	小林 恒夫 (医学部教授)	18.4.1 室員	越田 敏和 (事務局次長)
18.4.1 委員	加藤 清司 (看護学部教授)	◎危機管理室	
18.4.1 外部委員	馬場 昌範	18.4.1 室長	遠藤 俊博 (理事)
18.4.1 外部委員	菱沼 典子	18.4.1 室員	越田 敏和 (事務局次長)
◎企画室		18.4.1 室員	大橋 昭夫 (総務グループ参事)
18.4.1 室長	丹羽 真一 (理事)	18.4.1 室員	佐藤 洋 (財務管理グループ参事)
18.4.1 副室長	棟方 充 (医学部教授)	18.4.1 室員	堀切 豊 (企画グループ参事)
18.4.1 室員	福島 哲仁 (医学部教授)	18.4.1 室員	本田 信博 (附属病院事務部長)
18.4.1 室員	横山 齐 (附属病院副病院長)	18.4.1 室員	

18.4.1 室員	小野 俊六 (病院経営グループ参事)	採用 18.4.1 看護学部生態看護学部門 講師	平田 弘美
18.4.1 室員	瓶子 正明 (医事グループ参事)	採用 18.4.1 看護学部応用看護学部門 講師	古橋 知子
18.4.1 室員	吉田 和史 (学務グループ参事)	昇任 18.4.1 看護学部ケアシステム開発部門 講師	田井 雅子
18.4.1 室員	大橋 博行 (学術情報グループ参事)	昇任 18.4.1 附属病院輸血・移植免疫部 講師	尾形 隆
18.4.1 室員	北原 和子 (看護部長)	昇任 18.5.1 附属病院救急科 講師	池上 之浩
◎監査室		◎新事務局職員等	
18.4.1 室長	岡田 達也 (医学部教授)	転入 18.4.1 病院事務部長	本田 信博
18.4.1 室員	菅沼 孝雄 (総務グループ主幹)	転入 18.4.1 総務グループ参事	大橋 昭夫
18.4.1 室員	大野 竜一 (総務グループ主査)	転入 18.4.1 病院経営グループ参事	小野 俊六
18.4.1 室員	深谷 和弘 (総務グループ主査)	転入 18.4.1 財務管理グループ主幹	佐藤 秀夫
18.4.1 室員	佐々木利宏 (総務グループ副主査)	転入 18.4.1 学務グループ主幹	飯野 俊
◎名誉教授		昇任 18.4.1 総務グループ主幹	菅沼 孝雄
18.4.1	山本 悌司	発令 18.4.1 事務局次長	越田 敏和
18.4.1	鈴木 仁	発令 18.4.1 企画グループ参事	堀切 豊
18.4.1	金子 史男	◎大学健康管理センター	
18.4.1	吉田 浩	兼務 18.4.1 所長	安村 誠司 (医学部教授)
18.4.1	大波 哲雄	学内異動	
◎新部局長等		18.4.1 教授	佐藤由紀夫 (医学部教授)
兼務 18.4.1 学長	高地 英夫	■ 新任あいさつ	
兼務 18.4.1 副学長	藤田 禎三	 <p>理事長就任ごあいさつ ～法人化への出発にあたって～</p> <p>理事長兼学長 高地 英夫</p>	
兼務 18.4.1 学務部長	藤田 禎三		
兼務 18.4.1 附属病院長	菊地 臣一	<p>本学は平成18年4月1日をもって、公立大学法人福島県立医科大学として新たな出発を致しました。</p> <p>国公立大学の法人化は、大学改革の流れの中で、一つは大学への制限を減らして自由度を高め、創造的かつ先進的取り組みを積極的に促進することにより、大学を活性化すること、そしてもう一つは大学経営・運営の効率化を促し、運営経費に見合う社会貢献を求めること、即ち、公的資金で運営される大学は、その結果を社会に示す責任が求められるということです。</p> <p>本学の設立目的は、公立学校法人福島県立医科大学定款に、以下のように謳われています。</p>	
兼務 18.4.1 医学部長	阿部 正文	<p>① 県民の保健・医療・福祉に貢献する倫理性豊かな医療人を教育・育成する。</p>	
兼務 18.4.1 看護学部長	中山 洋子	<p>② 最新かつ高度な医学及び看護学を研究・創造する。</p>	
兼務 18.4.1 医学研究科長	阿部 正文	<p>③ 県民の生命(いのち)と健康を守る基幹施設として全人的・統合的な保健医療を提供する。</p>	
兼務 18.4.1 看護学研究科長	真壁 玲子		
兼務 18.4.1 附属学術情報センター長	平岩 幸一		
兼務 18.4.1 医学部附属生体情報伝達研究所長	本間 好		
兼務 18.4.1 医学部附属放射性同位元素研究施設長	本間 好		
兼務 18.4.1 医学部附属実験動物研究施設長	小林 和人		
兼務 18.4.1 医学部附属リハビリテーション研究所長	児玉南海雄		
◎新任助教授			
昇任 18.4.1 医学部薬理学講座	助教授 亀岡 弥生		
◎新任講師			
昇任 18.4.1 医学部病理学第一講座	講師 田崎 和洋		
昇任 18.4.1 医学部整形外科学講座	講師 田地野崇宏		
採用 18.4.1 看護学部基礎看護学部門	講師 工藤真由美		

この目的を達成するため、6年毎に中期目標が設定され、目標を具現化するための行程として、中期計画ならびに年度計画が作成されています。さらに、法人の中心的な運営・審議機関として、理事長、副理事長、理事および監事から構成される役員会と、法人の経営面を検討する経営審議会、並びに教育研究面を検討する教育研究審議会の3つの組織が設置されており、それらには学外から優れた人材に参加して頂いております。そして、目標の達成度合いは、学外委員から構成される評価委員会の評価を受け、県からの運営費交付金として反映されることとなります。このような「目標・計画・実行・評価、そして運営費交付金への反映」という一連の流れはすべて県民の前に晒され、大学が県民の評価を受けるものと考えて下さい。

新たな組織が十分機能するかどうかは、偏にそれを動かす一人一人の教職員の意識と気概にかかっています。今回の法人化によって、すべての教員だけが法人職員になりましたが、2年の移行期間後には、県から派遣される事務局職員を除き、全教職員が法人職員となります。是非、職員の皆様には現在すでに法人職員であるという認識に立ってご協力頂きたいと思っております。

私は担当を任されたこの2年間で、名実共に自立して活動できる法人への基盤整備の期間と理解しており、皆さんと共にこの2年間に全エネルギーを傾注する所存です。

公立大学法人福島県立医科大学が、新しい魅力ある大学に進化できるこの機会を着実に生かすため、認識を新たに努力してみようではありませんか。皆様のご協力を宜しくお願い致します。



副理事長就任ごあいさつ

副理事長（医療担当）
兼附属病院長 菊地 臣一

就任にあたっての挨拶ということで私なりの考えを述べたいと思っております。

日本の医療は、今、西洋医学を導入した明治維新以来、最大の変革期にあると私は認識しています。医療機関に対しての機会均等、結果不平等の徹底が、規制緩和の名の元に粛々と進められています。ご存じのように、日本の医療における人手不足は、医師や看護師の数は、人口比で見ると、欧米のそれと殆ど同じです。問題は病床数の過剰です。この事実をみると、政府の目的は病床の減少にあり、その手段として規制緩和があるのだと認識しておく必要があります。特定機能病院をモデルとした規制緩和に伴う様々な法律のハードルは、実際に対応してみると、想像以上に高いというのが私の実感です。しかし、それに対応出来ない施設は医療の現場から退場してもらうということで、それ

は本学として例外ではありません。まず、この事実への認識を病院のスタッフ全員が共有することが大切だと感じています。

私は、病院長を経験するのは初めてではありません。昭和61年に当時の福島県立田島病院（現在の県立南会津病院）に、東京の1,000床規模の病院から病院長として赴任しました。当時の県立田島病院の病床数は67床です。そこで一年半勤務しました。病院のスタッフは変わらないのに、翌年には結果として一億円を超える黒字を計上することが出来ました。その時の経験から学んだことは、病院に勤務しているスタッフは皆、十分な潜在能力があり、意識改革をすれば何事も不可能なことはないということです。

現在の附属病院を巡る医療環境の厳しさと自分の県立病院院長としての経験から言えることは、私自身が自ら動くこと、全員に賛成されるような運営はしないこと、そして朝令暮改を恐れないこと、この3点に尽きるように思います。どこまで出来るか分かりませんが、なるべく早い時期に「問題対応型」ではなく、「問題設定型」の病院の運営が出来ればと考えています。この難局を、病院の全職員の努力で乗り切れることを確信しています。



理事就任ごあいさつ

理事（企画・人材開発担当）
兼企画室長 丹羽 真一
（医学部神経精神医学講座 教授）

18年4月より公立大学法人福島県立医科大学の理事（企画・人材開発担当）を命ぜられましたので、就任の御挨拶を申し上げます。

これまで皆様と一緒に公立大学法人への移行作業をいわば突貫工事のように進めて参りましたが、4月1日には法人が実際にスタートしまして、未知の道に入り込んだような不思議な感覚にとられました。4月1日中に済まねばならない手続き上必要な種々の会議が分単位で連続して行われ、これまでお話しすることの無かった会社や銀行の方々と一緒に会議をするという体験も不思議な感覚を生み出す一因ですが、これまで机上の想定としてしか考えていなかったことを実際に作り出す作業が始まったことが主要な理由です。

一種の当惑感を脱して、理論的に語られてきました法人となることのメリットを具体化すべく、理事としての責務を果たすべく微力を尽くしたいと考えておりますので、御指導御鞭撻を御願ひ申し上げます。

私は企画・人材開発担当を命じられております。公立大学法人福島県立医科大学には企画室が設置されましたので、私は企画室長として企画室員となって頂きました皆様方と共に仕事を進めて行くこととなります。企画室員を御紹介

致しますと、副室長の棟方教授（呼吸器科）、室員の福島教授（衛生学）、横山教授（心臓血管外科、副病院長）、藤野教授（人文社会科学）、結城教授（地域看護学）、越田事務局次長の皆様方です。月に2回、このメンバーで事務棟3階学長・理事長室隣にあります企画・人材開発担当理事室（旧、副学長室）にて、パワーランチの形で企画室会議を行いながら、作業を進めております。

法人の企画室要綱には、企画室の仕事内容について、「魅力ある大学を実現するため、教育、研究、保健・医療・福祉、地域貢献等の活動に関する調査・企画・立案を行う」と規定されています。具体的には、(1)将来構想、(2)地域保健・医療の貢献、(3)中期計画・年度計画の策定・進行管理、(4)広報、(5)業務管理プロジェクトチーム編成、(6)重点研究支援体制、(7)公開講座・講演会、(8)国際交流、(9)その他、となっております。お分かり頂けますように、実に多様で広範な課題を担当する部門です。法人としてのメリットを生かして行くための、短期・長期の大学の将来構想作りが当面する重点課題です。皆様のお知恵をお借りしながら作業を進めて行きたいと考えておりますので、御意見やアイデアを企画室あてにお寄せ頂ければ幸いです。企画室の仕事を御紹介させて頂き、理事就任の御挨拶とさせて頂きます。よろしく御願ひ致します。



理事就任ごあいさつ

理事（教育研究担当）兼副学長
兼学務部長 **藤田 禎三**
（医学部免疫学講座 教授）

この度、教育研究担当理事と副学長兼学務部長を拝命いたしました。これは、本学が公立大学法人に変わったことに伴う新たな役職で、これまで教務委員長を4年間、学生部長を2年間拝命してきたことと関連があると考えております。特に公立大学法人に変わったということは、これまで以上に地域との連携を深めていかなければなりません。

本学は、文部省が主催する「国公立私立大学を通じた大学教育改革の支援」に応募し、平成16年度には本学のプログラム「地域連携型医学教育の試み—誰もが安心して暮らせる地域社会の実現をめざして—」が「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」に採択されております。このプログラムは、へき地医療支援システムにおける外部フィールドとなる拠点センター病院、地域拠点病院、診療所等を教育の場として設定し、「地域連携型医学教育」に取り組んでいます。さらに、平成17年度には、「ホームステイ型医学教育研修プログラムの創出—「地域で生きる」医師の定着に向けて—」が、「地域医療等社会的ニーズに対応した医療人教育支援プログラム」に採択されております。本学が地域と密着し、地域に貢献していることが、全国的に認めら

れ、地域医療における先駆的な働きをしていることが認められたことと思います。

今後も、大学教育改革プログラムには積極的に応募したいと考えております。特に、本年度は、21世紀COEプログラムが修了しますので、新たな取り組みにも募集したいと考えております。また、国家試験の合格率も目標が定められておりますので、その目標を医学部、看護学部ともに達成したいと考えております。微力ながら、学務部長として本学の発展に努力するつもりですので、皆様のご協力をお願いいたします。



理事就任ごあいさつ

理事（経営・渉外担当）兼評価室長
兼知的財産管理活用オフィス室長
平子 健

平成18年4月独立法人化にあたり非常勤理事として仕事をすることになりました。名門 福島県立医科大学の仕事をさせていただくことに誇りを持ち気を引き締めて仕事にあたりたいと思いますので皆様のご指導ご協力をお願いいたします。担当は経営、渉外ですが評価室長、知的財産管理活用オフィス室長を兼務することになりました。

なぜ、皆様より学のない医療分野外の者が出てきたのかと問われれば、民間の視点からという経営参加要請であると思っておりますが、私としては新しい組織で対応しようとしている医科大学、附属病院の改革に皆様とご一緒に取り組みたいと思う気持ちが高まったからです。生き生きと活躍する医科大学、附属病院の夢を見たいのです。現状は不満足な点もあると思いますが、設置団体の県におかれては出来る限りの支援を惜しまない気持ちであることを信じ、この気持ちを感じなければならぬと思います。皆様と一緒に現状を少しでも改革し、その成果を県に示そうではありませんか。必ず良い成果は良い結果を生むものと確信しております。

現在の経済状況を考えるとき医科大学としての教育が前提となりますが、長期を見据えた計画的財政基盤の確立が経営上非常に大切になっております。今後とも設置団体である県にはしっかりと支えて頂きながらも、自己財源の確保すなわち受託研究の拡大、病院収入の増加、各種寄付金の拡大など良質な医学振興のために収入の増加と積極的な経費削減に計画的に取り組む必要があります。そのために担当各位には、組織の中で待ちの姿勢を排除し積極的な行動を期待するものであります。そのような観点から、少しでも本学のお役に立つように努力したいと思っております。

私の席は大学管理棟1階にあります、是非お立ち寄りご意見をいただければありがたいと思います。よろしく御願ひいたします。



理事就任ごあいさつ

理事（管理運営担当）
兼事務局長 遠藤 俊博

このたび、本学の法人化に伴い、理事兼事務局長を拝命いたしました。平成16年4月からの2年間は県立最後の事務局長として、本年4月からは法人初代の理事兼事務局長として勤めさせていただくことになりました。

振り返りますと、この2年間は、法人化への取り組みはもとより、本学にとりまして、大きな変革の時期でありました。こうした、厳しい環境の中にあつて、公立大学法人として新たなスタートを切ることができましたが、これも、教員の先生方はもとより、本学を構成しております数多くの方々の、文字どおり昼夜を別かため献身的な御努力があつたことと思います。私自身、事務局職員として、微力ながら、一緒に仕事をさせていただいたことは、大変貴重で、また、幸せな経験でありました。

そして、いよいよ、歴史と伝統を誇る本学は、新生・公立大学法人福島県立医科大学として新たな歩みを始めました。

しかしながら、一応、法人としての体裁は整えたとは申せ、全ては、これから始まると言っても過言ではないと思います。

法人として、その特長を目に見えるかたちにし、職員の皆様方や県民の方々に、なるほどと納得していただけるようになるためには、数多くの山積する課題を一つ一つ解決していく外に道はないものと考えております。

これまで2年間勤めさせていただいた私の体験から申し上げますと、我々事務職員の使命は、様々な分野の専門家によって成り立っている大学・病院が、円滑に運営できるよう、知恵をしばり、関係者の方々の意見を聴き、一緒に考え、そして連携をとって行動することだと思っております。

法人化スタートの今年度は、数多くの課題の中でも、運営交付金のルールづくりや病院部門等専門的知識が必要な部署への事務職の採用など、緊急に取り組むべき課題の解決に努めてまいりたいと考えておりますので、よろしく御指導の程お願いいたしまして、挨拶といたします。

諸規程改正

4月1日から公立大学法人に移行したことに伴い、従来の諸規程は、すべて改正となりましたが、今回の諸規程改正では、その掲載を省略し、法人化移行後の改正について

記載いたしました。

■ 平成18年4月から5月までの諸規程の制定改廃関係

「公立大学法人福島県立医科大学組織及び運営規程」「福島県立医科大学附属病院規程」「福島県立医科大学大学院研究生に係る授業料免除内規」の一部改正（平成18年5月1日施行）

大学附属病院の「総合診療・地域医療部」が平成18年4月12日付けで「地域・家庭医療部」に名称変更したことに伴い、改正を行いました。

役員会・経営審議会・ 教育研究審議会・医学部 教授会・看護学部教授会

■ 教育研究審議会

【平成18年5月24日第3回教育研究審議会】

・名誉教授称号授与

本年3月31日付けで本学を定年退任した山本悌司氏、鈴木仁氏、金子史男氏、吉田浩氏、大波哲雄氏への名誉教授授与が決定された。なお、称号の授与日については本年の4月1日付けとされた。

■ 医学部教授会

【平成18年2月15日定例教授会】

・医学部長の選考

医学部長候補者に阿部教授（病理学第一講座）が決定された。

【平成18年3月15日定例教授会】

・動物実験委員会委員の推薦

次のとおり推薦され、その後、理事長から任命された。

動物実験に関係する教授から

挾間教授（生理学第一講座）

錫谷教授（微生物学講座）

村川教授（麻酔科学講座）

動物実験に関係しない教授から

清水教授（外国語講座）

岡田教授（数学講座）

・医学部教務委員会委員の選任

次のとおり選任された。

平岩教授（法医学講座）

上田教授（形成外科学講座）

藤野教授（人文社会科学講座）
 小林(画)教授（物理学講座）
 葛西教授（総合診療・地域医療部）
 任期は、平成18年4月1日から2年間

【平成18年4月19日定例教授会】

- 倫理委員会委員の推薦
 次のとおり推薦され、その後、理事長から任命された。
 佐藤(画)教授（産科婦人科学講座）
- 医学部附属リハビリテーション研究所運営委員会委員の補充
 次のとおり選任された。
 渡辺教授（内科学第三講座）
 上田教授（形成外科学講座）
 任期は、平成19年7月1日まで
- 医学部入学試験委員会委員の一部改選
 次のとおり選任された。
 八木沼教授（神経解剖・発生学講座）
 木村教授（薬理学講座）
 錫谷教授（微生物学講座）
 後藤教授（外科学第一講座）
 宍戸教授（放射線医学講座）
 大戸教授（輸血・移植免疫部）
 清水教授（外国語講座）
 渡辺教授（内科学第三講座）【健康診断担当】
 任期は、平成18年4月1日から2年間（ただし、健康診断担当の任期は1年間）
- 医学部教務委員会委員の補充
 次のとおり選任された。
 和栗教授（解剖・組織学講座）
 任期は、平成18年4月1日から2年間
- 附属学術情報センター運営委員会委員の推薦
 次のとおり推薦され、その後、理事長から任命された。
 生命科学・社会医学系から
 和田教授（細胞科学研究部門）
 前田講師（衛生学講座）
 臨床医学系から
 大戸教授（輸血・移植免疫部）
 加藤助教授（内科学第三講座）
 総合科学系から
 小林(画)教授（物理学講座）
 福田助教授（人文社会科学講座）
- 医学部予算委員会委員の選任
 次のとおり選任された。
 生命科学・社会医学系から
 挾間教授（生理学第一講座）
 安村教授（公衆衛生学講座）
 臨床医学系から
 佐藤(画)教授（産科婦人科学講座）
 大森教授（耳鼻咽喉科学講座）

総合科学系から
 岡田教授（数学講座）
 任期は、平成18年4月1日から2年間

【平成18年5月17日定例教授会】

- 大学院医学研究科修士課程に係る専門部会委員の推薦
 次のとおり推薦され、その後、理事長から任命された。
 藤田教授（免疫学講座）
 錫谷教授（微生物学講座）
 和田教授（細胞科学研究部門）
 小林(画)教授（生体機能研究部門）
- 事務局大学健康管理センター運営委員会委員の推薦
 次のとおり推薦され、その後、理事長から任命された。
 亀岡(画)助教授（薬理学講座）
 大平(画)助教授（内科学第二講座）

■ 看護学部教授会

【平成18年4月4日臨時教授会】

- 看護学部学務委員会委員の選任
 次のとおり選任された。
 荒川教授（生態看護学部門）
 加藤教授（生命科学部門）
 結城教授（ケアシステム開発部門）
 高橋助教授（生態看護学部門）
 大川助教授（ケアシステム開発部門）
 石田講師（家族看護学部門）
 川島講師（基礎看護学部門）
 任期は、平成20年3月31日まで
- 看護学部入試委員会委員の選任
 次のとおり選任された。
 亀田教授（総合科学部門）
 志賀教授（総合科学部門）
 林教授（総合科学部門）
 加藤教授（生命科学部門）
 太田助教授（家族看護学部門）
 鈴木助教授（生態看護学部門）
 黒田助教授（ケアシステム開発部門）
 任期は、平成20年3月31日まで
- 【平成18年4月18日定例教授会】
- 附属学術情報センター運営委員会委員の推薦
 次のとおり推薦され、その後、理事長から任命された。
 林教授（総合科学部門）
 本多教授（生命科学部門）
 鈴木助教授（生態看護学部門）
 太田助教授（家族看護学部門）
- 看護学部研究予算委員会委員の選任
 次のとおり選任された。
 亀田教授（総合科学部門）
 鈴木教授（生命科学部門）

荒川教授(生態看護学部門)
 大下教授(家族看護学部門)
 眞壁教授(応用看護学部門)
 任期は、平成20年3月31日まで

・看護学部ファカルティ・ディベロップメント委員会委員の選任
 次のとおり選任された。
 大下教授(家族看護学部門)
 小平助教授(生態看護学部門)
 稲毛講師(ケアシステム開発部門)
 木村講師(家族看護学部門)
 古橋講師(応用看護学部門)
 任期は、平成20年3月31日まで

・看護学部紀要委員会委員の選任
 次のとおり選任された。
 結城教授(ケアシステム開発部門)
 中山助教授(総合科学部門)
 伊藤講師(生態看護学部門)
 平田講師(生態看護学部門)
 渡邊講師(家族看護学部門)
 任期は、平成20年3月31日まで

【平成18年5月16日定例教授会】

・事務局大学健康管理センター運営委員会委員の推薦
 次のとおり推薦され、その後、理事長から任命された。
 加藤教授(生命科学部門)
 黒田助教授(ケアシステム開発部門)

・看護学部広報委員会委員の選任
 次のとおり選任された。
 林教授(総合科学部門)
 本多教授(生命科学部門)
 田中講師(生態看護学部門)
 安斎講師(ケアシステム開発部門)
 工藤講師(基礎看護学部門)
 任期は、平成20年3月31日まで

※ 役員会・経営審議会は、該当ありませんでした。

雑 報

■ 倫理委員会

【平成18年1月13日の委員会で承認又は条件付承認とされたもの(新規申請のみ)】

No.447 高齢者心不全の治療戦略に関する研究
 (申請者:内科学第一講座 教授 丸山幸夫)

No.448 左上腹部の消化管狭窄または疼痛を有する、根治切除不能噴門部がんまたは局所再発・遺残胃がんに

対するパクリタキセル、シスプラチンと放射線併用療法の臨床第I相試験
 (申請者:外科学第一講座 教授 後藤満一)

No.449 中高年女性うつ病患者の退院後の過ごし方と家族の期待
 (申請者:精神看護学領域 教授 中山洋子)

No.450 脳外傷による高次脳機能障害患者の生活上の問題—退院後から現在までに視点をあてて—
 (申請者:成人看護学領域 助教授 高橋景子)

No.451 高度進行胃癌に対する、術前TXL+CDDP併用療法+外科切除の第II相臨床試験
 (申請者:外科学第二講座 教授 竹之下誠一)

No.452 原発性アルドステロン症の薬物療法としてのテルミサルタンの有用性
 (申請者:内科学第三講座 講師 眞田寛啓)

No.454 糖尿病の寛解を目指したチーム医療による集約的治療
 (申請者:内科学第三講座 教授 渡辺 毅)

【平成18年2月3日の委員会で承認又は条件付承認とされたもの(新規申請のみ)】

No.455 シロスタゾールの高齢者の精神機能改善に対する効果
 (申請者:神経精神医学講座 教授 丹羽真一)

No.456 極低出生体重児の慢性肺障害予防に対するフルチカゾン吸入の多施設ランダム化二重盲検比較試験
 (申請者:総合周産期母子医療センター 部長 鈴木 仁)

No.457 25Gシステムによる硝子体手術の効果に関する無作為臨床試験
 (申請者:眼科学講座 教授 飯田知弘)

No.458 健常者における眼底自発蛍光の検討
 (申請者:眼科学講座 教授 飯田知弘)

No.459 悪性褐色細胞腫骨転移に対するカフェイン併用化学療法
 (申請者:内科学第三講座 教授 渡辺 毅)

No.460 悪性褐色細胞腫に対する α -メチルチロシン(デムサ)の投与
 (申請者:内科学第三講座 教授 渡辺 毅)

No.461 同種造血幹細胞移植後の難治性GVHD(移植片対宿主病)に対する抗ヒトTNF α モノクローナル抗体の有用性に関する検討
 (申請者:小児科学講座 教授 鈴木 仁)

【平成18年3月3日の委員会で承認又は条件付承認とされたもの(新規申請のみ)】

No.439 炎症性腸疾患におけるToll-like receptor9およびInterferon regulatory factor遺伝子変異の検索
 (申請者:内科学第二講座 助教授 大平弘正)

No.462 心拍動下心臓手術後における心臓表面運動の三次元解析

- (申請者：心臓血管外科学講座 教授 横山 斉)
No.463 亜急性硬化性全脳炎 (SSPE) に対するリハビリ
ン脳室内投与療法の有効性に関する検討
(申請者：小児科学講座 講師 細矢光亮)
No.464 境界性人格障害患者の治療枠組みと看護師の役割
(申請者：精神看護学領域 教授 中山洋子)
No.465 頭頸部扁平上皮癌根治治療後のTS-1 補助化学療
法の検討—他施設無作為化比較試験—
(申請者：耳鼻咽喉科学講座 教授 大森孝一)
No.466 パーキンソン病発症に関する栄養疫学的研究
(申請者：衛生学講座 教授 福島哲仁)
No.467 フェンシング選手における注視点追跡と競技能力
～少年期フェンシング競技における注視点の移動追
跡とトレーニング効果を関連づける試み
(申請者：衛生学講座 学内講師 黄田光博)

■ 学生の部活動報告

プライマリ・ケアを学ぼう会

内部代表 齋藤 明子

「プライマリ・ケアを学ぼう会」は発足3年目のサークルですが、これまでに家庭医療・地域医療などに関わる勉強会、意見交換会、実習といった盛りだくさんの活動をしてきました。『プライマリ・ケア』という名前ではありますが、サークル員は「よりよい医師になりたい。」という共通の気持ちをもって活動しています。ですから「プライマリ・ケアを学ぼう会」には、将来いわゆる「町医者」になりたいと考えている人もいますし、反対に具体的な「〇〇科の専門医」になりたい人、まだ将来を決めかねている人、と様々な学生が参加しています。そんな様々な考えをもった学生が、共通の「よりよい医師になるために、今、自分たちが何をすべきなのか」を日々考えながらサークル活動に反映させています。そんな私たちの昨年度の活動の一部を簡単にご紹介したいと思います。

昨年度は、7月と3月に『家庭医療を学ぼうセミナー』を開催しました。外部から講師をお招きし、家庭医に必要とされる視点や家庭医の日常診療について参加型のワークショップを通して体験することができました。また、5月には会津地方振興局の方々と「福島県（特に過疎地）の医師不足に対する意見交換会」を開き、それを受けた形で8月に会津地方での「地域および病院の見学会」を実現することができました。

定期的な勉強会としては、「シネメデュケーション」と「Problem Based Learning (PBL)」を開催してきました。

シネメデュケーションでは、ある映画の一場面を参加者全員で観た後に小グループに分かれ、その一場面についての感想を一人一人が話します。互いの意見を聞くことで、「同じものを見ても受け取る側によって何を感じるかが異

なるし、その表現の仕方も様々である」ことを再認識することが目的の一つです。この機会がコミュニケーション能力を向上させる場となれば、さらによいとも考えています。

PBLは、普段の勉強方法である「疾患名から病態の知識を学ぶ」だけでなく、実際の診察に近い「症状からどんな疾患を考えるか」を身につけたいというサークル員の希望から始まりました。4・5年生を対象にした勉強会で週に1回開催しており、本年度も続いています。

本年度は新入生を始めとして、4・5年生の新入部員も迎え、全体では医学部の学生25名で活動しています。上級生と下級生では医療に対する視点も異なるので、ディスカッションをすると、上級生は忘れかけていた視点到気づくことができますし、下級生は上級生の話からたくさん情報を得ることができるので、大変有意義であると実感しています。これからも私たちは、学年の垣根を取り払って、「よりよい医師になるために」何が必要なかを考えながら、活動していきたいと考えています。

最後になりましたが、私たちの活動を温かく見守ってくださり、困難な場面ではいつも的確なアドバイスをくださる顧問の衛生学講座教授の福島哲仁先生をはじめ、私たちの活動にご協力くださる多くの方々に、厚く御礼申し上げます。今後ともご指導のほど、よろしくお願い申し上げます。



弓道部

主将 浅間 宏之

弓道部は現在、男子部員13名、女子部員21名の総勢34名で活動しています。練習日は毎週火・木・土曜日で、毎回約2時間の間に、各自20本ずつ弓を引いています。また、練習日以外の日も、積極的に自主練習をしています。練習はいつも医大の弓道場で行っています。医大の弓道場は、大きさ、設備ともに立派なもので、他大学に比べると恵まれた環境の中で練習させてもらっています。

他大学との試合は、年に6回ほどあります。特に、東北大学や山形大学とは度々試合を行うため、互いに切磋琢磨

し合いながら、交流を深めています。福島医大は、最近では女子の活躍がめざましく、多くの大会で優勝をかざっています。最も大きな大会である東医体では、各大学の代表6人的中数により争われる団体戦があり、昨年度は、26校中の第10位でした。我が部は、過去には準優勝したこともあるのですが、ここ数年はなかなか入賞できずにいます。今年こそは先輩方の成績を超えていけるように頑張りたいと思います。

弓道は、試合では的中数のみで勝敗を競いますが、決して、ただ的中すればよいというものではありません。何よりも重要なのは、射形・体配（動作）の美しさや、何事にも動揺しない平常心です。毎年春と秋にある昇段審査では、これらのものが総合的に評価されます。普段の練習では、部員同士で見合って向上を図っていますが、月に数回は、指導者の先生を招き、指導していただいています。私たちだけでは気付かないような細かいことまで指摘していただき、そのおかげで部員全員のレベルも大いに向上してきています。また、福島県の弓道連盟が開催している講習会にも積極的に参加するようにしています。講習会では、一般の方々とともに弓道を学ぶので、新たな刺激を受けることも多く、自分たちの射技を改善するのに大変役立ちます。審査では、医大弓道部はここ数年、四段に合格する人がなく、高段者不在の厳しい状況が続いていますが、これらの活動を通して、審査でも認められるような素晴らしい射ができるようになるように、努力していきたいと思います。

最後になりましたが、いつもお世話になっております顧問の錫谷達夫先生をはじめ、多くの緒先輩方に御礼申し上げます。今後とも、どうぞよろしくお願い致します。



編集発行 公立大学法人福島県立医科大学
事務局企画グループ
〒960-1295 福島県福島市光が丘1番地
TEL 024(547)1013 FAX 024(547)1991